

# 日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 3 回 助成期間：平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 10 月 31 日

テーマ：地域の自然を大切に育てる子育てる理科学習

氏名：野田 智子 所属：横浜市立寺尾小学校

## 1. 課題の主旨

横浜市立寺尾小学校は、市内の市街地の中にありながらトリムコースという斜面緑地とビオトープと地下水がしみ出ている場所がある。数年前に子どもたちが総合的な学習の時間に取り組んで作ったビオトープを専門家に見ていただいたところ、素晴らしい環境でありヘイケボタルも生息できる環境であるというお墨付きをいただいた。その話を聞いた子どもはもちろんのこと、地域の方々にも「ふるさと寺尾」にふさわしいと喜ばれ、地域と協力した取組となることを期待している。

## 2. 準備

ビオトープの実態把握をおこなう。今いる生き物の種類や数をしらべ、寺尾小学校のビオトープの特徴を考える。

ビオトープでの自然観察は、春、夏、秋まで行う。カエル類と生息するトンボの種類や生息数の変化や植物の変化を調べていく。

## 3. 指導方法

### 1) 調査研究

4年生の「季節と生き物」の単元 5年生の総合的な学習の時間に、ビオトープやその周辺の自然を調べ、魚類、は虫類、昆虫、鳥類などの調査を行う。

### 2) 実践研究

寺尾小学校のビオトープの特長を捉え、生き物を増やすためにどうしたらいいのかという問題を持ち、その解決のための方法を理科や総合の時間の中で解決をしていく。

## 4. 実践内容

### 1) 参加者

環境委員会 5. 6 年生 24 名、5 年生 1 学級 35 名、4 年生 1 学級 34 名。

### 2) 授業手続き

4年生の「季節と生き物」の単元をとおして、ビオトープやトリムコースを中心に、どんな生き物がいつ見られたのか、調査をした。大まかな数の傾向を捉えるようにした。

5年生の総合的な学習の時間に、ビオトープやその周辺の自然を調べ、魚類、は虫類、昆虫、鳥類などがどの季節にどの程度の頻度で見られるのかについて調べた。

環境委員会と 5 年生の総合的な学習の時間で検討し、水面を多くすることで生き物が多くなるので



にする。

除草を行うに当たり、ふるさと寺尾懇話会の方々・地域の方々にもご協力をいただいた。

## 6. 所 感

これが自然の姿で、人が手を入れてはいけないといわれているビオトープではあるが、何も手を入れないと次第に荒れて生きものも住みにくい場所になっていくということがよく分かった。手を入れることで、生きものが増える効果があると同時に、自分が手を入れた場所であるという愛着がわき、その生きものを含めた自然ひいてはこのてらおという地域の自然にも愛着をもてるのではないかと思う。

小さいビオトープではあるが、この場所の活用をしていくことで、子どもたちにも様々効果が生まれると思う。

## 7. 今後の課題や発展性について

ビオトープの水面の確保は、今期始めた所なので、生き物が大幅に増えるかどうかは今後も見守る必要がある。ただ、トンボの産卵期、ヒキガエルの産卵期に水がたくさんあるために生物の個体数が増える事は十分考えられると思う。そうなれば、今回は確認できなかったヘビ類が帰ってくることも期待したい。

また、寺尾小学校では、プールもトリムコースに隣接しているため、秋から春までの間は使用しない大きな水面として生物のすみかとしての活用も期待できる。今回は水漏れ工事のために残念ながら活用は出来なかったが、来年度からは、植物を投入したり、メダカを放したりすることで、たくさんの生き物を発生させる場所にしていきたいと思う。

ビオトープは、放置するだけではなく、定期的に手を入れ、生き物が安定して済む場所にしていくことの意義を職員や地域の方達へ周知していくことの大切さも感じている。

## 8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事